

夢への挑戦



▲声を出し、プレーに集中

野球との出会い―弟の大晴くんが野球をしている姿を見て、「楽しそうだな。やってみよう」と思い、小学2年生で城山クラブに入部したのが始まり。小学生の時からずっと目指していたのが女子プロ野球選手。城山クラブで野球を始め、折尾愛真高校野球部でさらに技量を上げ、全国の猛者が集う入団テストに挑戦した。

夢への挑戦

6月11日、12日にわかさスタジアム京都で日本女子プロ野球の入団テストが開催され、福岡県折尾愛真高校3年で高木出身の中嶋南美さんが内定合格。日本女子プロ野球リーグのチームの一つ、REA・レイア（京都拠点）に4月入団予定です。



▲打席で構える中嶋さん

入団テストを受け、1週間後には内定の報告があった。内定をもらったとき、嬉しい気持ちと自分のプレーが通用するのかと不安な気持ちでいっぱいになった。内定が決まったことを一番最初に報告したのは、3年間苦業を共にしたチームメイト。仲間と囲まれ、共に喜んだ仲間たちの思いが、後ろ向きな気持ちにならなっていた中嶋さんの背中を後押しした。折尾愛真高校での女子プロは初めて。もちろん御船町でも初めてのことであった。

自分の強みを活かす

1年生の時に折尾愛真高校の女子硬式野球部の磯部貴一郎監督に「プレーインブマネージャー」を任された。試合中でもプレー中に課題点を見つけたら、先輩後輩関係なく、声をかけるようにしている。



▲愛真の仲間たちと集合写真

野球が続けられるのは、費用面などでも家族の支えがあつてこそだ。中嶋さん

家族の支え

守備の中嶋さんのポジションは、外野手（センター）。守備範囲の広さは武器となり、「今は状況ごとに守備位置が分かる」と話す。磯部監督は「中嶋さんはいつも1歩目が早く、難しいところも対応できる」と守備に信頼を置いている。バッティングでは身長はあまり高くないが、パワーでは誰にも負けない自信がある。

折尾愛真高校の野球のグラウンドは校舎から離れているため、学校が終わる次第、みんなバスに乗り込んでグラウンドに向かう。平日は3時間しか練習時間が取れない中、短い時間で量より質の練習をし、1球の大切さを実感した。

熊本地震のとき、高木の中嶋さん宅も被災した。父から送られた被災した写真を見たときは、泣き崩れた。復興に向かって行く中で、自分に何が出来るだろうと考えたときに、「野球で活躍して、少しでも感動や喜びを与え、家族が笑顔になってくれるなら」と話す。震災が起きても、当たり前のように過ごしている毎日大切にしていきたいと思う中嶋さんは、自分の夢を叶えるために次の一歩を踏み出した。

これから目指すもの

中嶋さんにとって野球とは、仲間の大切さやいろいろなことに感謝することを教えてくれるもの。その思いを胸に、中嶋さんは「みんなから応援される選手になりたい」と話す。中嶋さんを動かす力の源は、何より野球が大好きだということ。野球に対する一歩強い気持ちだ。今、小学生の頃から夢見ていた舞台に立つこととしている。これからも中嶋さんの活躍を見逃さない。

女子プロ野球選手に合格

みんなから応援される選手になりたい



中嶋 南美さん

(福岡県折尾愛真高校3年 = 高木出身)

Profile：なかしま みなみ

小学2年生で城山クラブに入部。チーム初の女性部員となる。6年生から副キャプテンを務め、レギュラーに定着。高校は、福岡県折尾愛真高校の女子硬式野球部に入部。右投左打で広角に強いバッティングができ、俊足を活かした守備、強肩が持ち味。プロに合格し実力を身につけるまでになった、その背景に迫る。